

2020 年 8 月 11 日

通貨ニュース

インド: 8 月金融政策委員会～物価動向を注視し、利下げは見送り～

インド準備銀行(中央銀行、RBI)は 6 日、金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利のレポレート据え置いて 4.00%とすることを決定した(図表 1)。また、リバースレポレートも 3.35%の現状維持となった。RBI は政策金利の据え置きに関して全会一致での決定となったと発表した。ブルームバーグの事前予想では利下げ予想が優勢で、44 人のうち 22 人が 0.25%pts 利下げを見込んでいた。なお、RBI は今年既に累計 1.15%pts の利下げを実施している。

ダス RBI 総裁は会合後の会見にて、物価上昇圧力は強まっており、インフレ見通しをめぐる不透明感と新型コロナウイルスによる前例のないショックの中で極度に低迷する経済情勢を踏まえて、政策金利を過去最低水準に据え置いたと述べた。今後に関しては、インフレ率の動向を注視するとともに、経済成長の再開に必要な限り長期にわたって緩和的な姿勢を維持することを表明した。

IMF の経済見通しによれば、インドの 20 年 GDP 成長率は前年比▲4.5%と約 40 年ぶりの低水準に落ちこむことが見込まれている。しかしその一方、国内で実施されたロックダウンによってサプライチェーンが分断されたことや、洪水などの自然災害によって食料品価格を中心に物価水準がインフレ目標(+2%～+6%)を超えた(図表 1, 2)。RBI は低迷する経済と高止まりする物価動向の間で、身動きが取れない状況に陥っている。ダス総裁は本会合後も利下げ余地が存在していることを強調していたが、利下げの具体的な時期に関しては明言しなかった。市場では、足許の物価動向がインフレ目標水準に落ち着くまで相応の時間を要するとし、RBI は少なくとも年末まで利下げには慎重な姿勢をとることを見込む声も浮上している。

インド国内での新型コロナウイルスの感染者数は米国、ブラジルに次いで世界第 3 位となっており、8 月上旬には 200 万人を突破した(図表 3)。感染の抑制の目途は立っておらず、感染拡大が地方にまで及んでいる点も報告されている。これに対し、インド政府は 8 月末まで一部地域封鎖の延長を決定しており、更なる経済成長の下振れが懸念される状況は続く。

INR の動向に関しては、新型コロナウイルス感染拡大による先行き不透明感、大きく弱含むであろう 4～6 月期の経済指標が INR 安要因として挙げられる。その一方で、FRB の金融緩和期待などを背景にドルインデックスが 2 年ぶりの安値水準を推移している。ドルの過剰感が指摘される中で、INR の急落リスクは限定的と考える。そのほか、インド SENSEX 株価指数が 3 月以降での高値を記録し、債券の対内証券ネットフローに関しては、少額ながら 2 か月連続で月間のプラスに回復している点など(図表 4)、今後も利回り追求の資金流入も想定される。国内のマイナス要素は無視できないものの、やや出尽くし感もあり、短期的にはドル側の要因が相場変動を左右する状況となりそうだ。

市場営業部

堀 堯大

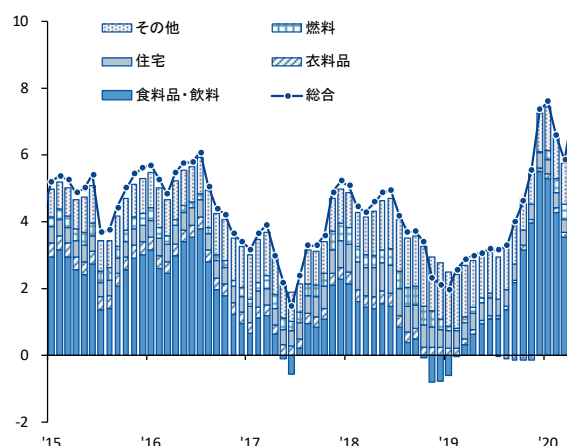
03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

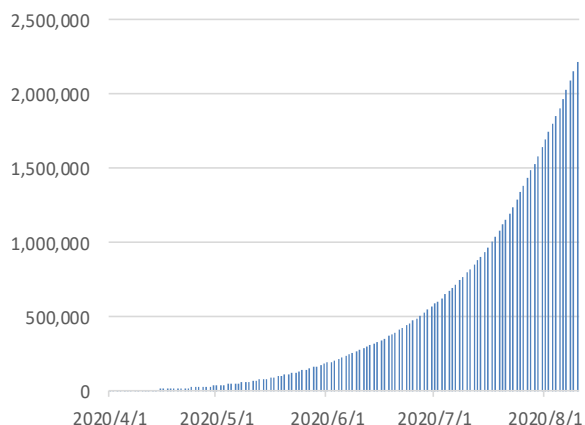
図表 1: レポレートと物価水準の推移


出所: Bloomberg、CEIC、みずほ銀行

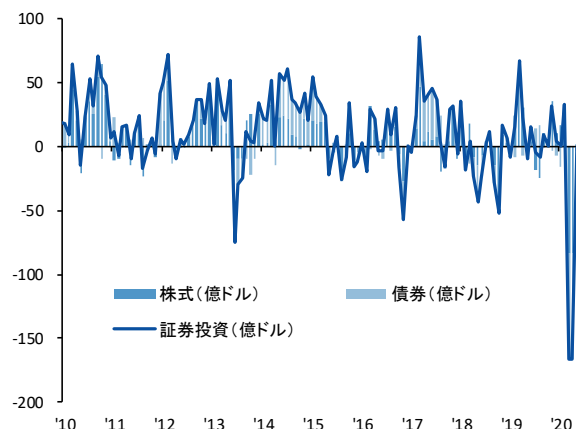
注: 赤枠はインフレ目標のレンジ

図表 2: 消費者物価指数の動向(前年比%)


出所: インド中央統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3: 国内新型コロナウイルス累計患者数(日次、単位:人)


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: インド対内証券投資の動向


出所: インド証券取引委員会、ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。